

まどして歩を連ふを見んか。

轉じて我が日本を顧みれば、降雨の量多きと、高山ありて其の落下する力を利用すべき便多きとに於て、實に天恵の國といふも妨げなし。夫の水河は不幸にして之れ有るなく、降雨の季節河水漲溢し、然る後ち復た漸くにして乾涸し、其の年々漲溢するが爲めに多大の損害を被むるを免れず、堤防を修築するも隨て修築し隨て潰決し、要する所の費額甚だ大なりと雖も、其の潰決して禍を被むらすの大なるは即ち其の落下する力の極めて大なるを證すべく、若し其の力を轉じて福に利用するの装置せんか、嘗て損害を被むるの大なりし丈け其れ丈け利益を得るの多きことならん。我國の山岳は概ね峻嶒にして、其の溪谷狹隘なれば、ダムを造るに極めて便な

るの地あり、雨降の後に氾濫して禍害をなすべき河川の水源即ち狹隘なる溪谷に大なる池を造り、四時常に一定の水量にて流出するの装置を作すある、乃ち常に氾濫の禍害を避け得るのみならず、更らに炎天連旬なるも爲めに河川乾涸して水無きに困むの患なく、且つ土地の便宜に應じて水力電氣を起すの利益をも占め得べし。要するに多量なる雨水の高山より落下し來る力は大なる寶にして、たとへ我國には他に收拾すべき天然の寶なしとするも、幸に此の大なる寶の收拾すべきある、則ち是れのみにて既に充分といひて可、たゞ此の大なる寶を利用するの果して宜しきに適するを得るや否やは疑はし。諺に謂ゆる寶の持ち腐れとは、即ち現に占據せる利益を享受するの方を知らざるもの、損の損た

る之より大なるは莫し、而して能く其の有する所の寶に依りて利すると將た之を持ち腐らしむるとは、一に之を用ゐるの如何に存す。

運河は猶ほ未だ我國に於て大に用ゐらるゝに至らず、現に用ゐられつゝあるは主として灌漑の爲めにして、中には舟運を通ずるもあれど、皆な極めて小なるに止る。琵琶湖を利用して南北に貫通する大運河を開鑿するの議は往々に數々設計者の考案に上りし所、若し之が工事にして成就し、瀬戸内海と日本海との連絡、全く相ひ通ずるを得る、困りて生ずべき利益は、必ずや大なるものあらん。我が日本は地勢の狭長なるに割合して土地の切開せる處甚だ少し、瀬戸内海よりして馬關海峡に通ずる水運の利あるは實に天幸と謂ふべく、ボルネオ形若くはスマトラ

形と較ぶる、則ち頗る利益ありとすべきも、而も尙ほ幅數十里を横ぎるに數百里を迂廻するの已むべからざる者あり、若し琵琶湖を利用して南北を連する大運河の竣工する、依りて生ずる利益の多大なるや必ずすべきも、此の開鑿工事に極めて大なる障礙の在るあり、即ち湖南の地を截割して大阪に至るの頗る妨に拘はらず湖北の地は山骨皆な石、之れを截割するの難たき、殆んどパナマ運河に譲らず、恐らくは彼れと同一の費用と努力とを要するなるべく、開鑿を了るの後、依りて得る所の利益は能く其の費やす所を償ふに足るやは輒く判明せず、均しく南北を連絡するの要ありとする、寧ろ丹後の由良川より截割して攝津に出づるの障礙少きに若かざるなり。

固より大運河開鑿の途を由良の方面に採りたりとて、尙ほ少からざる費用を要せんも、而も此の大運河開鑿工事の竣了する後帝國の軍艦をして自由に南北相ひ應ずるの便を得せしむる、則ち其の結果として軍艦の数を節するを得べきは必然、假りに戰艦一隻の製造費一千五百萬圓と見積りて十隻の費額を投するある、優に之を完成するを得ん、たゞ此の一運河を開鑿せしが爲めに新たに帝國の防備に戰艦十隻の力を添へ得たりと爲すべからざらんも、而も軍艦の運命は二三十年に過ぎず、之に反して運河の用は殆んど永久無盡といふべく、時に浚渫を要するあるのみ、以て國家百年の上よりして觀る、其の利益あるに於て相ひ距る洵に遠からずや、況んや運河の用は獨り戰時に於ける軍艦の運動に

のみ利ありと限らず、平時に於ける商船の航通にも亦た甚だしく便利を興ふるに於てをや、開鑿の初めに方りて特に見るべきの利益なきとも永遠の歲月よりして觀れば其の益するの大なる斷じて疑ふべからず。凡そ邦國には皆な各々已むを得ざる事情の存するあり、其の以て是とする所も爲めに成すこと能はざる多し、是れ寔に邦國として奈何ともし難たき所たりと雖も、今日は漸を逐ひて水力の時代及び運河の時代と爲らんとするの時たるを忘るべからず、我國は鐵道の敷設既に略は備はり、更に敷設を要するの土地尙ほ他に之れ有るも、其の略は完了するの日は必ずや遠きに在らざらん、而して其の愈々完了するの時は即ち水力の將に大に用ゐられんとするの時たるべし。

奢侈品と必需品

文明國の稱ある者の常態は概括して言ふことを得ず、國民の性行風俗は彼此一ならずして、孰れも事の善きと惡しきとを併せ有するが、奢侈と必要との關係の善く保たる、是れ蓋し事の善きもの一たらん。文明國と呼ぶる國に

とするを視て奇異の感を懷くと同じ、乃ち二錢以下を使用せざる丈け其れ丈け高價なる通貨の行使さるゝを觀ると雖も、而も一たび日常の必要に就て檢する、則ち其の價格は却て意外に低廉なるもの多し。

奢侈の流行の盛んなる殆んど言語に絶し、萬金を携へて足を爰に投する者ある、一二品を得て之を散する固より易く、或は購はんとして而も其の携ふる所の以て辨じ得ざるを歎するあるべく、總じて生活の程度甚だ高かして言ひ難さる。或る國にては我が二錢以下の小通貨を使用する者なく、其の我國にて五厘二厘を使用するを視て奇異に感ずる、猶ほ我が國人が印度人の燐寸一箱を購はず數本若くは數十本を買はん

鶏卵の價は略ぼ我國と同じく、牛肉も亦た大差なし、羊肉は廉なり、豚肉は牛肉と相ひ似たれば、稍々高かすとすべきか、大根は高價なれど、菜類は廉、馬鈴薯は尙ほ更に廉なり。飲料も特に高からざるが、中にも牛乳は廉にして、大抵水を飲むと同じく之を飲み、獨にては其の價正さに我國の半分なり。伯林に日本料理店あり、嘗て久しく公使館に雇はれし者の營む所、料理の粗なるは勿論にして、牛鍋、刺身、蒲焼、

燒肴等の形を供ふるに過ぎざれども、其の材料は則ち我國に於けると異なるなく、而して如何に多くを命ずるとも一圓を超ゆるの稀れなるに徴する、以て價の低廉なるを推すべし。若し珍味佳饌、其の他奢侈性の食物飲料を命ずる、則ち一膳に驚くべき高額の支拂を請はるべしと雖も、贅澤を罷めて唯だ必要の飲食物のみに止むる、寧ろ少許の費用にて足るべく、畢竟奢侈性の物を除きては一般の飲食物皆な高からずといふべし。

男子の衣服は倫敦を第一とし、女子の衣服は巴里を第一とし、兩國各々特長ありて世界第一の名を専らにする久しく、爾餘の諸國能く企て及ぶなしとせらるゝが、此の倫敦にては、背廣の價四五十圓、フロック七八十圓と巡例とす。

而して是れ皆な毛の柔軟なる者にして、若し毛の硬きを厭はざらんには、頗る廉價にて辨じ得べきや言ふを待たず。カルチギー曾て英國より來訪せる一客に面し、己れの着衣を指して價幾何なるべきを問ふ、客答ふらく、余の着するは七十五圓、卿の着するは稍之に優るに似たり、恐らくは價も亦た稍高からんと、カルチギー聽きて笑らひ曰ふ、余の着するは九圓にて當地に購ひしもの、人は皆な米國を指して物價高直と稱す、而も卿の衣服と余の衣服とに觀る則ち如何と。夫れ米國人の着する衣服の中品質の良好なるは概ね英國より輸入せるもの、之を購はんとする必ず高價を拂はざるを得ざるも、其の米國製なるものを購へば寧ろ廉とすべく、加ふるに一着の衣服能く幾月を支持するに堪へ、降

雨に濡ひ塵埃に塗るとも爲めに甚だしく褪せ或は弊ふれず。英國人は高帽にして白胸、皆な頗る念を入るゝの常なるが、獨國人はたゝカラーを着け、廣き襟飾りを擴げて胸部を掩ふもの多し、又たカフを着けざるも少からず、かくして身に必要なる調度に止むれば其の要する所決して高からざるなり。寢具に至りても價四五圓の毛布二三枚をシートに裏みて其の中に臥す、以て暖を保ちて安眠するに餘りあり、唯だ時にシートを濯ひ毛布を日光に曝らすの煩を忍ぶのみにて、幾年を経るも清潔を保つを得べし。寢室に錦繡を張り、寢臺に金玉を鏤めんことを求むる、其の要する所や實に際限なからんも、普通必要とする所を備ふるに何か有るべき。家屋を建築するにも、贅澤なる裝飾を求めず

して單に必要な造作を備ふるに止むる、之に要する所の費用亦た低廉にして足る。戸の如き窓の如き、此れのみを製造販賣する店舗あり、行いて此處に求むれば直ちに購ひ歸るを得べく、壁と天井は紙を張れば、一見頗る美麗なるも、價を問へば則ち廉なり。普通の室内裝飾具たる机、椅子、戸棚の類、これ亦た綺麗なれども、就いて仔細に檢する、多くは粗質の木に光澤ある良材を薄く着けたるもの、外觀の美麗なるに拘らず價を問へば則ち廉なり。故らに樹質の良好なるを擇び、若くは數寄を凝らし意匠彫刻の新奇巧妙なるを求むれば際限あるべくも非ざれど、最も普通なるは額縁類は杉(エゾマツ)、椅子類は胡桃、稍大なるは松材の質に他の良材を張り着け、或はワニスを塗附して光澤を添へ

たるなり。室内の粧飾に必要なりとする他の多くの玩具類も、總じて外觀甚だ美麗なれども、價を算すれば意外に高價ならず。素より質の良、技の巧、形の美なるを求めて價の高きを厭はざる、則ち愈々高きを求めて愈々高きあり、往年有栖川宮の宮殿新に成りて宮殿下の彼地に遊歴ありし時、室内粧飾品を購はんとせし隨行員は其の極めて高價にして準備せる金額を以て豫定の幾分をも購ひ得ざるに驚きしといふ。眞に高價なるを購はんと欲せば際限なく、一面の額、十萬圓に上るあり、一宴室の粧飾に百千萬圓を投ずるの難からずと雖も、奢侈性の粧飾を避けて必要なるものみに止むる、能く少許の費用を投じて一切を辨するを得べく、以て自ら樂むべく、又た家人の目を慰むるを得ん。近來歐太

陸に我が日本品の飾りあるを眺る多し、室内に入りて偶爾一瞥する、眞の日本製たるを否とを判別するに難き程なれど、實は即ち獨逸製の模造品にして、價格の極めて低廉なるもの、其の一見漆と見うるはラクに過ぎず、而も模擬の巧みなること殆んど眞物を奪ふの觀ありて、價格は日本製に比して遙かに廉なり。且つ彼地にては近年漆樹を移植し、専ら之が培養に勤む、想ふに其の寒冷なるは之れが成長に適すべく、更に巧みに培養し巧みに應用する、或は眞の我が漆器に優るものを製し、而して賣價は我が日本製より一層低廉ならんも知るべからず、蓋し低價の物品を製造するは實に其の妙を得たる所なり。

彼の國人は善く勉め善く遊ぶと稱す、而も其

の謂ゆる善く遊ぶとは抑々如何なる事を爲すか土曜日の午後若くは日曜日多勢相ひ伴ひて公園に遊ぶこと即ち是れ。而して其の公園に遊ぶや、或る者は園内を徘徊し、或る者は共同の椅子に腰を卸ろし、以て一日の歡樂を罄くし、酒樓に酒を呼び旗亭に食を命ずるが如きは寧ろ稀れなり。音樂會又は演藝會の催ふしは毎に之れ有り、場内の壯麗華美なる、寔に以て眼を懐ましむ、入場料は二三圓より六七圓に上る、飲食する者は別に之れが價を拂ふの定規なれど、多くは僅かに或る飲料を取るのみにして、費やす所多からず。大に奢侈を極めんとする、即ち何れの方面に於ても際限なく、一本のシガー十圓を價し、一瓶の葡萄酒百圓を價し、或は一頭の乘馬十萬圓と稱せらるゝに至る、衣服若くは粧飾品の如

き、其の金石寶玉を用ひて修飾せるものは皆な測るべからざる高價に上る。少數なる貴族富豪の慾を滿たさしむべき贅澤品に就て高價なるものを檢する、則ち其の際限なき此の如しと雖も普通人民を樂ましむべき類のものは要する所特に多しとせず、各自其の分に應じて耳目を悦ばしめ得る丈の物品を準備し、かくて之を己れに恰適せる贅澤と爲して安んずるならば、極貧ならざる限り之を能くするに易かるべく、復た其の力の及ばざるを歎するの要なし。必要なる衣食住の資料皆な低價に購ふことを得、以て普通人としての生活を容易にし得る組織は、洵に稱すべからずとせず。

我國にては百般の貨物低廉なるやに聞ゆれど日常の食料品たる米は決して廉なりと謂ひ難た

29/1/37

明治三十六年十二月廿五日印刷
明治三十七年一月一日發行

版權
所有

定價金五拾錢

發著
行者
者象

東京市赤坂區新坂町八十二番地

三宅雄二郎

印刷
人

同 神田區雉子町三十二番地

深山一郎

印刷
所

同 神田區雉子町三十二番地

成章堂

發行
所

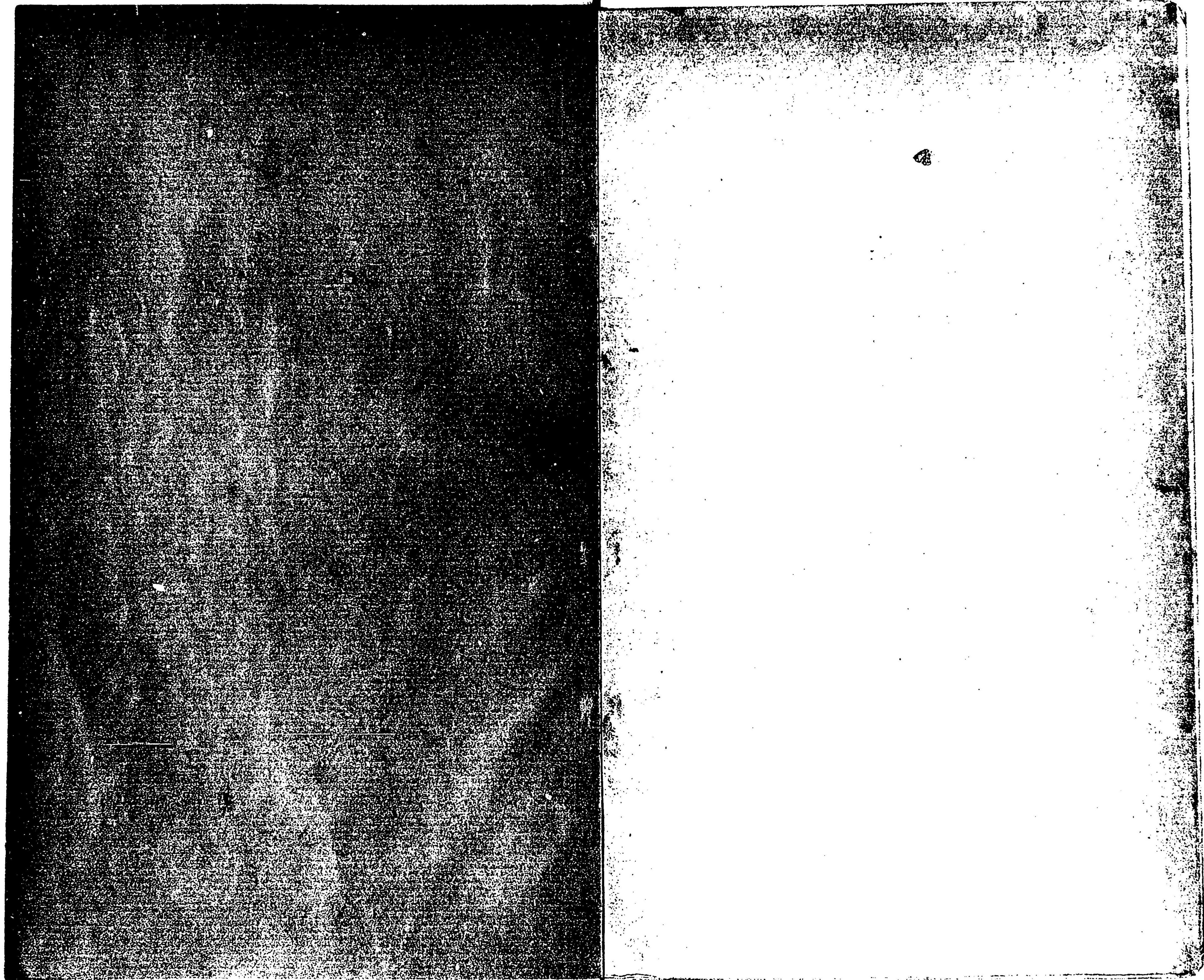
同 神田區雉子町三十二番地

政教社

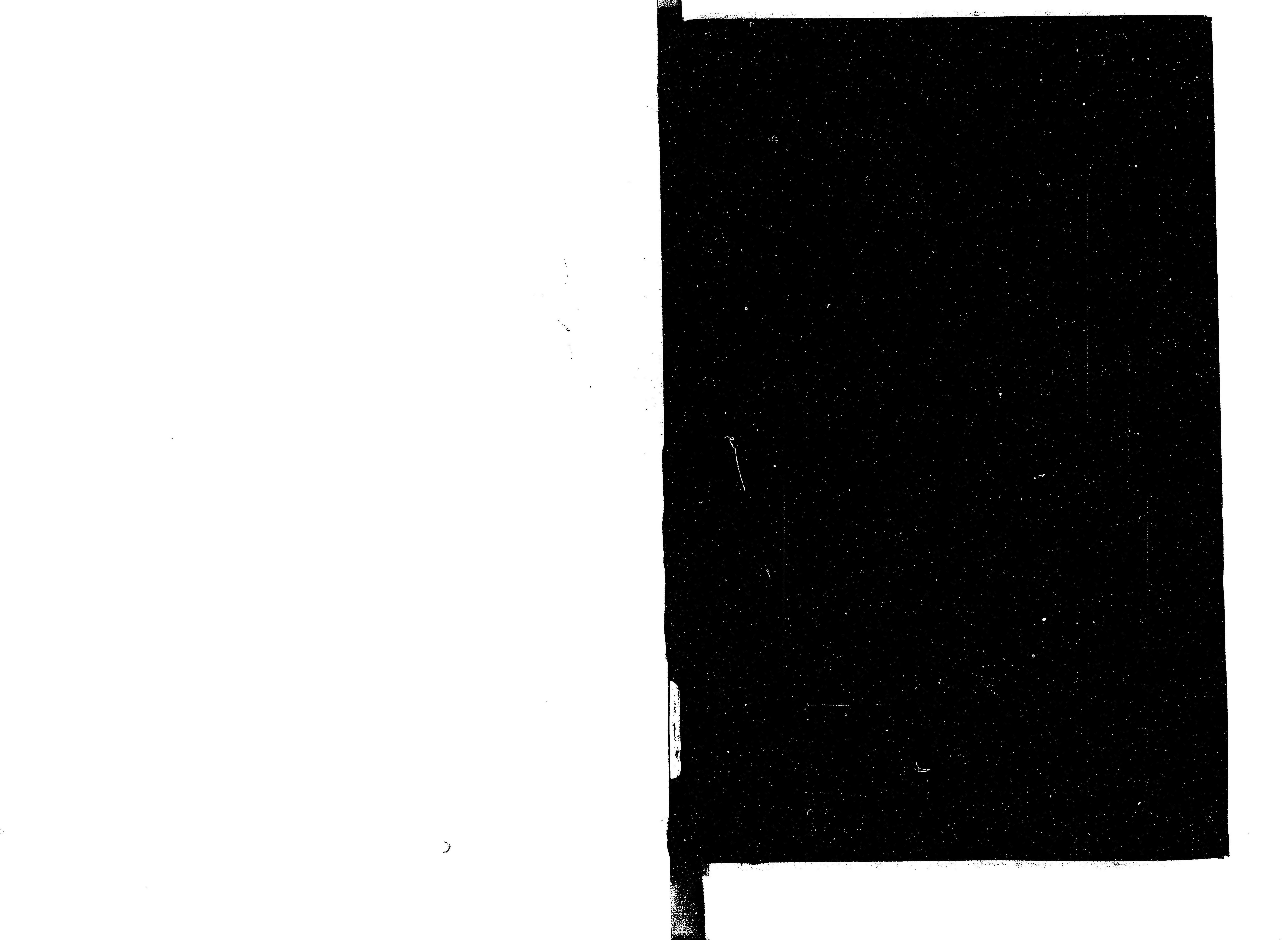
發賣
所

同 神田區表神保町

東京堂



47
357



039646-000-8

77-354

大塊一塵

三宅 雪嶺/著

M37.1

BDA-0226



